

匠 瑳
96
探訪

内裏神社

野手を歩く

672年に皇位継承をめぐって起きた国内最大の内乱とされる「壬申の乱」にまつわる伝説が野手(野田地区)にあります。

長谷に接する内裏塚集落に内裏神社がまつられ、案内板に次のように書かれています。(戦いに敗れた)大友皇子妃であった耳面刀自妃は従者18人とともに難を逃れるため東国に向かいこの地に漂着したものの亡くなり、里人が内裏塚を築き埋葬し

た。のちに従者の子孫が遺骨を大塚原(旭市)に移葬した。

1340年余り前の伝説を今日に伝えるために尽くした2人を紹介します。

額に「内裏神社」と書かれた鳥居の奥に、「北総匠瑳郡野手邑内裏塚記」と刻まれた高さ110cmほどの石碑があります。この碑は明治15(1882)年12月3日、当時の八日市場警察署長・広田彬氏(ひろたのぶ)が私費で立てました。



耳面刀自妃が埋葬されたと伝わる内裏神社

広田氏は 碑の由来や 同5日に催された式典の様子などを書き残しています。それによると、同氏は署長として赴任して2年余りにわたり管内を巡視するな

かで、内裏塚を知り建碑したとされます。私祭当日は松山神社神官・松山英胤(ひつしな)や椿村作新精舎の教育者・高野隆、青木不動、八日市場村の大枝十兵衛ら100人余りが参列し、千人を超える見物人で賑わい、笛や太鼓で囃し立て、供えられた餅も配られたといえます。広田氏はその後も千葉県を通じて史跡認定を受けるべく保存活動に尽くしました。

広田氏の活動から80数年経た昭和40年代に地域の歴史に関心を持つ熱田白洋氏(故人)の精力的な調査がありました。熱田氏の残された記録には、「今後(広田氏の建碑した)この碑が埋もれたら誰が顕彰するのだろうか」と佐倉市にその後の広田氏のことや、従者の子孫が住みついたとされる旭市泉川、大塚原、駒込周辺を調べたものの期待した結果が得られなかったとあります。

昭和41年の県営圃場整備事業の後、遷宮記念碑が建てられ、「内裏神社」とともに「耳面刀自妃」伝説の地として保存されています。

(元)市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080